

《議題1 産業競争力の強化に向けた規制改革の提案について》

※ 資料1に基づき産業労働部長から説明

(主な意見)

- 国家戦略特区として、次世代自動車、航空宇宙産業をかなり広範囲に取り上げているのは、時宜を得た的確なピックアップ。
- 都市産業が一定の範囲に集中した地域が日本を牽引していく。これは今までの発展関係がそうであるし、これからも続いていく。
- この地域の産業は、柔軟に変化しながら発展してきた。戦後すぐは、繊維が中心で、次は重化学工業。その次は加工組み立て型産業で、自動車とか機械が中心。自動車はリーディング産業になってから、30年以上が経つが、自動車そのものが大きく変わっており、これからも、リーディング産業であり続けると思う。航空宇宙は、かつては、技術としてはコアだけど、市場規模が小さいという部分があったが、今は、市場規模も拡大しており、今後、リーディング産業となり得ると考えている。そうした意味からも、次世代自動車や航空宇宙産業が取り込まれているのは非常によいこと。
- 一方で、環境エネルギー分野の記述は弱い感じがする。再生可能エネルギーや、地域分散型電源、アセスの問題、いずれも大事なことではあるが、「次世代自動車や航空宇宙産業を世界のコアにしていく」というのに比べると、環境産業としての打ち出しがどうかという感じがする。
- 次世代自動車や、航空機の面からも、環境に貢献する自動車や航空機が県内にあり、環境サイドだということを打ち出せば、何か書けるのではないか。
- 愛知の国際戦略を作る際、知事から、「アジアの活力を愛知が取り込んでいく」と発言があったが、私も同感である。
- 従来の日本におけるアジア留学生の受入という問題を取ってみると、今後、アジアの優れた人材を日本、愛知に受け入れるためには、座して待つだけでは、不可能であると考える。
- 私どもの大学では、例えば、法律の分野で、アジアにおいて、ウズベキスタン、モンゴル、ベトナム、カンボジアに日本語による日本法の教育も含めたセンターを作っている。更に、今年度は、ミャンマー、ラオス、インドネシアにも作る。現地で教育した上で、優れた人材を名古屋に招くということをしている。その場合、重要なのは、現在は若手だが、将来は国家の中枢を担う人材について、その育成を名古屋で行うということが大事だと思う。

- 法律の世界だけではなく、エンジニアリングの世界でも、非常に優れた人たちがいるので、現地に行ってそうした人たちを獲得できる仕組みを作り上げていくことが重要だ。
- 全体の方向性としては、この方向性で間違いないと思う。
- 現在、貿易赤字は全国で8兆円超だが、当地は6兆円程度の黒字を計上している。「この地域が日本全体の貿易黒字を支えている」、「赤字をかなり縮小している」というトーンは少し入れてもいいと思う。
- I T S 関連だとか、自動車のデザイナー等は、本来、ものづくり周辺の関連産業だが、多くが東京やパリ、NYにいる。そういう人たちを、この地域に受け入れた時の支援措置を考えられないかと思っている。
- 先ほど環境エネルギー面の記述が弱いとの意見もあったが、有料道路のコンセッションにプラスして、例えば、高速道路の法面に太陽光パネルを設置することや、SAに充電設備を設置することで、EVやPHVの普及にも繋がっていく可能性があるのではないか。
- 久屋大通で以前、道路をオープンカフェにするという社会実験があったが、道路占用料が高く、民間企業では採算に合わないということがあった。太陽光パネルの設置等も含めて、占用料の引き下げができれば、道路ネットワークが充実した愛知から、全国に発信できるのでは。
- 訪日外国人観光客の受入拡大に関しては、産業観光とM I C E を関連させて愛知県独自の観光パッケージを何か打ち出せないか。それに関連し、英語対応の要員とか、通訳の常駐とか、そういう方向性も、入れられないかと思う。
- 民間活力を最大限に利用し、規制改革を進めることは非常に重要。こうした観点から、この地域の関心事項を上手に絞り込んでおり、応援していきたい。
- メニューの中で特区が1番に挙げてあり、ものづくりの中心地として立派な特区を創っていければよいと思う。ここで大事なことは、事業環境の整備を徹底して追求していくこと。例えば法人税では、特区ではさらに深掘りをして法人税を下げていくことが考えられる。また、次世代産業の研究開発税制の強化や各種手続き等の簡素化をしていけば、大きな推進になると思う。
- 訪日外国人観光客の受入拡大。これは交流人口を増やしていく上では非常に重要。ビザの発給条件や免税制度は非常に厳しく、交流人口の増加という点からも、この辺の実現が必要。

- 中小企業も地域のプレイヤーの主体であるということを認識して進めていく必要がある。既に、国際戦略特区制度の見直しの中で、面的な指定が行えるよう盛り込んであるが、中小企業は面的な指定がないと、対象になりにくいのが現状。他の分野でも、具体的な行政施策の遂行、制度の立案で、中小企業にも使い勝手が良いものにしていただきたい。
- 有料道路運営の民間への解放について、道路は産業ユーザーとしては非常に重要。例えば、料金を均一にするとかいろんな形があると思うが、競争力をアップするという観点を、具体的な運営では配慮して欲しい。
- 我が国の再生を図り、新たな成長を目指していくためには、ものづくりを中心とする経済の成長が不可欠だと認識している。特にこの地域は、我が国のものづくりの中心地であり、政府が成長戦略をまとめようとしているこの時期に、県と経済界が共同でこの提案をすることは、意義深いと思っている。
- 我々も自分たちで取りまとめたものを、先週、要請してきた。今回の「あいち産業競争力会議」とも協同して行動していければと思っている。
- 最初の「国家戦略特区（仮称）への提案」の記載方法については、もう少し検討したほうが良いと思う。枠の中の内容と、それ以降の関係が、一般論の項目なのか、国家戦略特区の項目なのか、分かりにくい。
- 外国人観光客アンケートで、「旅行中に困ったこと」の第1位が無料無線LAN環境、2位がコミュニケーション、3位が公共交通の経路情報の入手となっている。案内表示、道路標記の標準化や多言語表示の推進、無料無線LANの拡充といったことを加えて頂けると有り難い。
- この地域の発展には、ヘルスケア産業、農業、地場産業の活性化の問題もある。この地域は、高速道路網が整っているのも、それを活かす料金の定額化や出口を増やして利便性を高めることも検討していく必要がある。
- 愛知も少子・高齢・人口減少社会に間違いなく向かっていく。今後、インフラの維持経費を抑制していくためにも、コンパクトな街作りや中心市街地の活性化に資する、土地利用規制の緩和・強化などの見直しをしていく必要がある。
- この提言に止まらずに、引き続き様々な問題について検討を行って頂いて、一緒に提案をして頂ければと思っている。

《議題2 国家戦略特区(仮称)への提案について》

※ 資料2に基づき知事政策局長から説明

(主な意見)

- 「三大都市圏」という言葉を使っているが、「三大都市圏」という言葉にぶら下がると、これでグループの中に入れてもらえるという雰囲気が出て甘えることに危うさを感じる。「愛知が日本を引っ張る」でいいのではないか。
- 有料道路のコンセッションが出ているが、PFIの趣旨は、より良いサービスをより低い住民負担で提供し、それが事業機会の創出になるということ。資料の中に、料金の低廉化が出てきていないことに、違和感を覚える。
- サービスエリアに地域の人が集まれるような場所を整備し、地域の拠点として使うということも考える必要がある。
- 雇用のところで、「子育て支援、障害者福祉、NPO支援等の」という言葉が出てくる。内閣府の共助社会の検討委員会で、これから何を重点的にやっていくのかを審議しているが、私は、ソーシャルビジネスだと思っている。共助社会というと両隣助け合いという感じになるが、ビジネスとして、非常に大きな雇用機会でもあり、数年後には100万人規模になると私は思っている。ビジネス的な手法でもって、社会公共的な問題を解決していく。そうした視点も参考にさせていただきたい。

- 全国トップクラスの留学生受入事業について説明があったが、大学としては、大変感謝をしている。同時に、受け入れた留学生を、どのように勉学をさせていくかということでは、産学の連携が非常に求められる。例えば地元の企業において、インターンシップを行い、さらに能力を高めるような施策が重要で、そのためには、産業界の理解が必要だ。
- 愛知県の場合にはベトナムで、バロネットという帰国留学生の組織化が行われているが、いわゆる帰国留学生のネットワークを、他のアジアの国々においても、早急に作り上げる必要がある。
- 留学生を受け入れるという問題は、日本人の学生をどのように外に出していくかということにもつながる。一方的な受け入れだけでは、日本の若者が外国を知らないという事態を招いてしまう。学生が外国に行って、勉学・体験ができる機会を与えることが、愛知の活力を高めていくのではないか。

- 愛知は東京・大阪とは基本的に構造が違い、愛知の自動車産業、航空機産業の影響は、九州や東北・北海道に波及している。製造業の、日本全体のエンジンが愛知だというところを強調してもよいのではないか。
- 特区とか、人材、雇用といったところにも関連するが、デザインとかブランド力とかI T S、次のシステムなど、付加価値を高める部分で愛知に欠けていて、東京なり世界にあるという部分がある。その辺りの育成や企業・人材の誘致で、名駅地区、空港島、臨空都市などで、関連企業の誘致に際して、法人税を大幅に引き下げることにも検討してもよいのではないか。
- 企業を強くする、人を集める、人・モノを動かす、こういったような観点で、モノづくり産業強靱化スーパー特区は非常に配慮してやっていただいている。
- 航空宇宙の特区の場合、エリア指定が地番指定になっていて、少なくとも最初の段階では大きな企業の工場しか指定されなかった。大企業だけではなくて中小企業まで、あるいは広がりを考えていく場合に、面的アプローチは非常に大事。理想的には、愛知県全域、少なくとも面的な広がりを持ったような指定が必要だと思う。
- 法人税の軽減もそうだが、研究開発促進税制、投資促進税制、それぞれ現在の税制で中小企業特例が認められており、この深掘りの検討をしていただけると有り難い。
- 海外の優秀な人材を活用するというのは理解できるし、よいと思うが、一方で、最近の大学生の能力が落ちているという声もある。この地域のモノづくりを支えていくためには、地域の人たちがしっかりと高度人材を担うという気概を持ってやっていく必要がある。
- 産業界も学としっかり連携をとってやる必要があると思っている。我々もこれから産学連携を深めていこうと思っており、この地域の中で高度人材をいかに育てるのかということについても、配慮していただければ有り難い。
- 内閣官房のナショナル・レジリアンス委員会の資料で、世界の都市・地域で、安全・安心の評価が高いところが、産業競争力が高いというのが出ていた。
- それはすごく大事なことで、世界の研究者をこの地域にとっているときに、津波が来るから逃げろと言うのはいけない。安心・安全と産業競争力の相関関係が非常に高いということだけ、申し上げておきたい。